

### 第3回 新一般廃棄物最終処分場候補地選定委員会 会議録

1 開催日時 令和6年3月19日（火）午後3時30分から午後4時15分まで

2 開催場所 名取市役所議会棟第1・第2委員会室

3 出席者

(1) 委員

濱田 雅巳 委員（委員長）、山田 一裕 委員（副委員長）、山口 晶 委員  
劉 庭秀 委員、後藤 康宏 委員

(2) 事務局（名取市）

小畑生活経済部長、加藤生活経済部次長兼クリーン対策課長、  
朽木クリーン対策課長補佐兼クリーン対策係長、高梨クリーン対策係主事

(3) オブザーバー（亙理名取共立衛生処理組合）

水戸業務課長補佐

4 会議の公開・非公開の別

公開で開催

5 傍聴者 10名

6 会議の記録方法

委員名を除いた要点筆記

7 挨拶 濱田委員長

本委員会も今年度3回目の会議となる。前回は建設可能エリアの選定、選定条件の追加などについて委員各位からご意見を頂戴した。本日は事務局より、建設可能エリアの絞込みについて説明があるので、忌憚のないご意見、ご提言を頂きたい。

8 報告事項

(1) 第1回住民説明会の内容について

報告事項（1）住民説明会の内容についてに基づき、事務局より説明  
以下、委員からの意見等

### <委員>

住民の皆さんの意見を見ると、最終処分場は必要不可欠な施設だと理解した上で、安全に造ってほしいという意見に見えるが、建設の必要性の理解について、住民の皆さんに伝わっているという理解でよいか。住民説明会の中で、事務局としてどのように感じたか教えてもらいたい。

### <事務局>

ごみは生活していく上で排出するものなので、住民の方々も最終処分場は必要不可欠ということは理解して頂いている。質問のやりとりの中で、自然環境への影響やダム等の水資源の関係などについて不安に思っている方もいた。そのため、自然環境への対策にしっかり取り組まないと、住民の方々の理解も進まないと感じた。

### <委員>

個別の質問に対してどのように回答したのかの情報公開も大切だが、質問が同じ内容の項目でまとめ、どのような分野に参加された方の関心が高かったのかを示すことも、情報として分かりやすいと思う。

## 9 議 事

### (1) 建設可能エリアの除外要件の追加について

資料1～資料6に基づき、事務局より説明。資料2 建設可能エリアの③・④・⑤・⑦・⑩の5箇所について、今後詳細調査をかける方向性で進めることが了承された。

以下、委員からの意見等

### <委員>

住民説明会の意見では、「安全安心対策」・「災害」について関心が高かったのだと感じた。

今回、除外すべき区域は、それに沿って見直しをされたと思うが、前回の意見に「水害」や「津波」についても検討すべきではないかとの話があったが、そこは除外しなくもよかったのか。

### <事務局>

「水害」や「津波」は、資料2の⑩が該当するが、今後実施する詳細調査の結果で判断をしていきたい。

### <委員>

低湿地の冠水しやすい場所に対して、構造物を造ることができる可能エリアと、この浸水深を超えたらもう建設は不可能となる支障エリア、この境目を選択する上での条件を確認しておく必要があるのではないかと。浸水深について、除外すべき区域として検討に値する条件は特になかったのか。

### <事務局>

浸水深の高さについて、何mまでは可能といった検討はまだしていない。

<委員>

ハザードマップ上はどうなっているのか。浸水深が高くとも、費用をかければ構造物として建設することは可能との判断なのか。

<事務局>

⑩の浸水深は、ハザードマップ上で5mから10mの間となっている。今は判断基準を持ち合わせていないので、詳細調査をかけてから判断したいとの考えで除外をしなかった。

<委員>

どのような構造物にして、どこまで嵩上げすれば安全が確保されるか、はっきりしたデータがない中で、完全に駄目だと言い切れないということだと思う。また、名取市の津波浸水エリアの現況を見ると、事業用地として活用されており、構造物が建てられない場所として排除されていない。今後、詳細調査のデータが出てきた際に、どのように取り扱うか決めることになるのではないかと。

<委員>

⑥の「地層」について、過去の地盤調査で13m程度までが軟弱地盤との結果だったと説明があったが、現況が田である⑦についても調査をすれば軟弱地盤の可能性は否定できないが、データがないので建設可能エリアに残るという理解でよいか。

<事務局>

⑦は過去の地盤調査資料がないので判断できなかった。

<委員>

建設可能エリアとして、この5箇所が残ったのは妥当な選択だと思う。現段階で確証がないのに危険そうだから除外するのではなく、本当に危険だと確実にしてから除外する考え方も正しい方法だと思う。そのような考え方をしていけば、住民にも理解をしてもらえるのではないかと。

<委員>

資料1について、まとめ方としてD-追加のNo3「市の将来の土地利用計画」の項目は、C-追加の事業活動としてまとめた方が収まりがよいと思う。

<事務局>

指摘のとおり修正する。

10 その他

<委員>

最新の処分場の構造であること、安全安心に注意して造られる施設であることを、行政から住民の方々へ誤解のないように説明し理解していただくことが必要だと思う。

- ・次回の第4回委員会は、令和6年5月上旬に5箇所の現地確認を行う。  
詳細な日程は、別途調整する。